



池本市長が初登庁 (昭和63年12月21日)

未来を見つめ着実に歩む

市議会議長 地上一男



新春を迎え、市民の皆様へ、市議会を代表し謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は第四十三回国民体育大会が京都府で開催されました。本市でも、夏季大会では水泳競技、秋季大会ではサッカー・ソフトボール・馬術競技が行われ、成功のうちに終えることができました。多大なご協力とご尽力を寄せてくださった市民並びに関係者の皆様へ、厚くお礼申し上げます。この国体を契機に取り組んだ京滋・京奈バイパス、下居大久保線、城陽宇治線の開通、更には天ヶ瀬森林公園、黄檗体育館、西小倉コミュニティセンターの完成をみるなど、昨年は本市にとって、一層の充実・発展の年となりました。

さて、ポスト国体の初年に当たる本年も、地方財政の環境は、依然として厳しい状況にあります。しかし、市議会といたしましては、市民生活の向上と本市の更なる躍進のため、創意工夫と努力を重ねて参る所存です。今後共、市民の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますと共に、ご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

市長 池本正夫



新年を迎え、市民の皆様へ、謹んでごあいさつを申し上げます。

私は、昨年十二月、第十一代宇治市長に三選され、今後四年間市政を担当させていただきますことに、改めて身の引き締まる思いをしています。

昨年は、第四十三回国民体育大会を関係団体や市民の皆様のご協力により、大成功のうちに終えることができました。心から厚くお礼申し上げます。また、国体を契機として取り組んでまいりました京滋バイパスを始めとする諸事業も、着実に進めることができました。

今後共、国体に結集された市民の皆様のエネルギ―を、二十一世紀を展望した「緑豊かな、住みたい、住んでよかった人間都市」づくりの推進に、大いに生かしてまいりたいと考えています。

引き続き厳しい財政状況の中ではありますが、道路網の整備や公共下水道事業の一層の推進、宇治橋架け替えの促進、フラワーセンターや新庁舎の建設など、夢とロマンのある施策に全力で取り組む所存ですので、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年のごあいさつ

トなまちです 私の宇治市

春インタビュー

「向かって走ろう」のスローガンの下に第43回国民体育大会一京都国体は、市で大成功を収めました。そして今、宇本成功に向けて結集された市民のエネルギー21世紀を目指した新たなまちづくりとしています。また、昨年12月には、市政を担当する第11代宇治市長も決ま、新年にあたり、各分野で活躍中の場いただき、皆さんの抱負と今後の宇お伺いしました。



ンティアを志して

森尻 よし子さん（50歳） 主婦

と言っていたいた時は、本当にうれしかったですよ」と話す森尻さんは、点訳「宇治川グループ」の責任者です。

「私たちは、社会福祉協議会の点訳講習会に参加した人が集まったグループで、点字雑誌「宇治川」を月一回発行しています。今までは一回一冊しか作れませんでした。今度、総合福祉会館に点字ワープロが入るので、増冊して内容も変化に富んだものが作れると、喜んでいます。

ほかにも、教科書などの点訳や中途失明者に点字をお教えし

子供たちをはぐくむ

木元 健蔵さん（53歳） 会社員



「私には、大人が約束を守らなかったために子供心が深く傷ついた、苦しい思い出があります。だから、自分はそんな人間にはならないぞと、肝に銘じてきました」と話す木元さんは、神明学区青少年健全育成協議会長や市少年補導委員をお務めです。

「クリーン宇治運動は、皆さんの努力で地域に定着し、盛り上がってきています。その中で強く感じるのは、大人や先生の温かい一声が、一生懸命取り組んでいる子供たちの大きな励みになる、ということです。大人や先生方はこのことを、もっと認識してほしいですね。

私たちの活動は、補導が必要になるような環境をつくらない、がモットーです。そのためには、地域の各団体が子供同士も交流できる機会をつくる、何事も親子・みんな一緒に取り組むというようにして、地域に根差したふれあいづくりを進めていきたいと思っています」

スポーツと音楽の輪へ

円実 恵津子さん 自由業



リズム運動で、育ち盛りの子供たちに音感と反射神経を養ってもらおうと活動している円実さん

入っているよう、話題収集やちびっ子に人気のテレビ番組なども、見るようにしてありますよ。これが若さのヒケツでしょうね（だから、年齢はナイショ）。お勤めの人でも気軽に参加できるよう、夜間にもいろんな軽スポーツや体操の教室を開いてほしいですね。それから、中高年の婦人の皆さん、もっと体を動かしましょう！」

ホッ

'89 新

「新しい歴史に
繰り広げられた
民総参加によっ
治市は、京都国
ルギーをバネに
に取り掛かる
向こう4年間の
りました。そこ
6人の市民に登
治市への期待を



シイタケに取り組む

大西 美樹也さん(29歳) 農業
孝子さん(24歳)

市街地近くでシイタケ生産に
携わり、宇治椎茸(しいたけ)生
産組合長を務める大西さんは、
「まだ毎日、無我夢中です」と話
す孝子さんと、昨年十月に結婚
したばかり。

「市場に近く、シイタケ生産に
有利な点はあるのですが、今よ
りも規模を拡大することは、労
働力や経営面から、難しいと思
っています。ですから、私の経
営方針は「いかに経費や手間を
減らして収益を上げるか」です。
出荷も、袋詰めからパックづ
めに変え、より早く多くできる
うえ、有利に売れるようにもな
りました。また、市場価格の高
低に合わせて生産量を調整し、
安定した収益を上げる工夫も大
切にしています。」

今は周囲に農地が残っていま
すが、今後開発を進める場合に
は、以前からそこに住んでいる
人のことも考え、計画的な街づ
くりをしそ
しいですね

ふれあいの輪の中へ

木下 正子さん(70歳) 無職



「今日は、公民館で何をしよう
と思うと、朝起きるのが楽しみ
なんです。私に協力してくれる
家族に、いつも感謝しています」
と話す木下さんは、小倉公民館
に高齢者教室ができて以来、運
営委員会の副会長をお務めです。
「教室では月一回、幼稚園の訪
問、ゲートボール大会など、さ
まざまな催しを開いています。
参加して良かったのは、多くの
人とふれあうことができ、いろ
んな人の話が聞けることです。」

昨年は、はじめて公民館まつ
りに参加して、若い人とも交流
できました。そうしたおつきあ
いの中で、お嫁さんと同年代の
人の考え方なども、わかった気
がします。今後、こういう機
会がほしいですね。
ひとつ残念なのは、地元で公
民館を利用する人がまだまだ少
ないことです。せっかくの公民
館なんですから、もっと活用す
るよう、皆さんに声をかけてい
るんですよ」



陶器に魅せられて

滝 暎華さん(44歳) 陶芸家

「自分の技法を生かし、伝統的
な中にも新しいものを加えたい
と努力しています。今でも窯を
開けるときは、ドキドキするん
ですよ」と話す滝さんは、手仕
事好きからこの道に入り、二十
八歳から炭山にお住まいです。
「この仕事は、落ち着いた気分で
制作することが大切です。から、
静かで緑の多い炭山は、うって
つけの土地です。でも最近、
道路が良くなって便利になった

ため、いろんな開発の話も入っ
て来ます。小学校の複式学級を
解消するために子供が増えては
しいとは思いますが、この素晴
らしい環境は、守りたいです。ね
陶器には、手づくりの温かき
があります。陶芸教室を開いた
り、各種のイベントなどに参加
したりして、陶器の持つ良さを
多くの人に知ってほしい、地元
の人にもっと買っていただきたい
と思っています」



ボラ

「ああ、あれを
点訳していただ
いた人ですか、

たりと、いろいろ活動していま
す。今は、英語点字にも挑戦し
ているんですよ。
点訳は家でも出来るので、人
前が苦手な私にびったりですし、
みんなでカバーして、無理なく
活動しています。ボランティア
を志す方、参加されてはいかがか

十二支の由来

干支と巳ーさん

今年の干支は、み（巳）ーさんです。子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥の十二支の六番目にあたり

赤道を真ん中に地球に帯のような地域を定め、それを十二に分けて、星などの位置を言い表しました。その十二のところに、宮という名を付け、全体を十二宮と呼び、それが中国に伝わって、十二

宮のそれぞれに動物などをあてました。これが十二支の始まりだと言われます。子（鼠）、丑（牛）、寅（虎）、卯（兎）、辰（竜）、巳（蛇）、午（馬）、未（羊）、申（猿）、酉（鶏）、戌（犬）、亥（猪）というわけ

です。さて、みーさんは蛇ですが、蛇は恐ろしい、執念深いと嫌われます。しかし、それは大間違い。蛇は池や沼に住む水の神様、また、弁天様のお使で、財宝を守ってくれるのです。特に、白蛇は神様として祀られています。

ところがこの神様、なかなか人目につくところには現れません。けわしい山の中うっそうと木の茂っているところ、川の流れているところ、これが神様の住みかです。

宇治には、白蛇を祀る神社はないのでしょうか。ありました、ありました。東山の白長社、大谷の白長社、ここにみーさんが祀られています。

蛇は、地中から出てくると勢いが盛んになり、万物に力を与えます。そのため、白長社は蛇の出そうな、山深いところに建てられました。今では、石碑も多く建て、熱心な信者さんによって守られています。

宇治にもあるへびのお話



大昔から、人々は犬や猫はもちろん、いろいろな動物とかわり合いながら生きてきました。そして、人間と動物

白蛇 宇治に出現

—蛇騒動記—



白蛇が出たと言われる宇治川

にまつわる伝説も、たくさん語り伝えられています。今年の干支のみ（巳）ーさん、蛇も話の数では犬や猫より多い程で、多少恐れられてはいても、人間にとって身近な動物であったことが分かります。

そこで、宇治で起こった蛇騒動の一つ。時代は十五世紀の初めの室町時代、季節は七月です。宇治川の中を白蛇が泳いでいるのを子どもが発見し、大騒ぎになったという話が語り伝えられています。この蛇のその後の足取り（蛇に足取りがあればの話ですが）はよく分かりませんが、この事件から十五日経ったある日、現在も宇治市神明に祀られている神明神社の境内で、またもや白蛇が出現しています。

話はこうです。ある男が京から神明神社に来て境内を歩

いていると、小さな白蛇と出会いました。白蛇はめでたいもの、幸福をもたらすものと思われていたから、その男は、家を守ってくれる神だろうと持ち帰り、大切にお祀りして育てました。そのおかげか、家は栄えていろいろなものを人々に貸す程になりました。ところが、蛇が余りにも大きくなって恐ろしくなったのと、その女房を連れて逃げようとしたために、男は太刀を抜いて蛇を切り殺そうとした。蛇は逃げて行ってしまいました。その後、男の家は急に貧しくなっていってしまっ

たということです。以上の話は貞成親王という人が書いた『看聞日記』という史料にある話です。みーさんも余り怖がり過ぎたり嫌ったりすると、幸福を逃してしまいかもしれませんね。